

2010年7月27日 東日本区1998~2011ヒストリアン 吉田 明弘

## 国際議員が続々来日

### 8月1日から、横浜で国際議会

国際大会の前触れといえますが、国際執行役員会議、国際議員研修会、国際議会が7月30日から8月4日まで、横浜市都筑区のオンワード研修センターで開かれます。

そのため国際役員、国際議員が、7月29日の約25人を第一陣として来日し始めます。

藤井寛敏国際会長の就任もあり、国際議会が身近に感じられるようになります。

それでも国際議会については、知る機会があまりありません。「国際議会ってなに？」69代(1994-1995年)国際会長・青木一芳さん(千葉)に解説をお願いしました。

## ワイズの国際議会とはこんな会議

### 国際議会とその構成員

国際議会は、毎年7月か8月に開催される、国際協会の立法機関です。

偶数年は、国際大会の直前か直後に、また、奇数年は、そのころ開かれるどこかのエリア大会の直前か直後に開催されます。

国際議員21名全員と、国際執行役員(国際会長・次期会長・直前会長・国際会計・国際書記長)、それにTOF審査委員長・BF配分委員長・メネット代表・ユース代表など特定の役員が列席します。傍聴は原則自由です。大会にBF代表として参加する人は国際議会を傍聴して国際ワイズについて学ぶことが求められており、期間中の宿泊・食費は国際持ちです。

国際会長が議長を務めますが、動議を出したり、採決に加わったりできるのは21人の国際議員だけです。

## 国際議員の選出方法

国際議員21名は、世界の8つのエリアに、エリア内の総会員数によるドント方式で定員が割り振られています。まず全エリアに1名ずつ割り振り、残り13名を大きいエリアに多く割り振ります。

(最初の1名を含め)アジアが7名、欧州が5名、インドが4名、あとのエリア(アフリカ・カナダカリビアン・ラテンアメリカ・南太平洋・米国)は1名ずつ、という構成がしばらく続いていました。最近インドの勢いが急伸び、定員がアジアからインドへ1名移る予定です。

議員の任期は3年で再選はなし。ただし定員1名のエリアでは任期2年か3年を議員自身が選びます(各エリア選出の議員のうち誰かがエリア会長を兼ねます。その任期は1年限り。ただし議員1名のエリアは議員任期中エリア会長を続けます。)

## 国際議会の議題

議題は、国際協会の会計予算(国際会費の額の決定を含む)、決算、TOF支援先と支援額の決定、BF基金の配分・BF代表の派遣枠決定、国際大会開催地の決定(3年前)・大会予算等開催内容の吟味(2年前)、国際書記長・国際ユースインターンの採用人選、エリア・区の設置と境界線の設定、区定款の審査・承認、事業委員会・実働委員会の設置、事業主任等の任命(国際会長の提案を承認)、ほか国際全体のプロジェクトの審議・決定などなど多岐にわたります。

## 国際議会の議事進行

通常、国際議会は4日間。議員には2か月前にワークブックが届けられ、予習が求められます。

開会初日は、まず新任の議員の簡単な就任式と出席者の自己紹介。議事運営委員の選任、日程の承認。日曜の場合はこの辺で中断して教会の礼拝に出かけます。

午後は、各国際執行役員の活動報告。予算の第1読会(国際会計が提案)。エリア会長たちとBF配分委員長とでBF代表枠の立案。他の議員は国際の懸案についていくつかグループ分けして協議します。

夕食後 TOF の評価と支援先立案の会議(自由参加)があります。

2日目、3日目は、エリアからの報告・提案、事業主任や委員会からの報告・提案が続きます。議員から動議・セカンドが出れば討議し、採決します。通常どちらかの日の午後、並行して開催されているユース・コンボケーションの会場を全員で訪問し、そこでユース関係の議案をユースと共に討議します。議事が最終日に持ち越しになると、忙しくなります。

午後には予算の第2読会を行い、予算を決定せねばなりません。余裕ある年は夕刻までに終わり、晚餐でくつろぎますが、年によっては夕食後に議事が続いて、おそくに何とか閉幕ということもあります。

国際議会の結果は国際書記長作成のミニッツ(議事録)に記され、夏の終わりに配布されます。重要事項は全クラブ会長の批准を要します。ミッドイヤーミーティング(年央会議)

1月に国際執行役員と次期エリア会長が参加して開き、次の国際議会への準備に当たります。

次期国際会長や国際議員の選挙の結果がここで公表されます。この会議では決議はありません。会場は、偶数年はジュネーブの国際協会事務所、奇数年はどこかの区が誘致・ホストします  
青木一芳(千葉)

## YMCA が発刊した図書

ヒストリアンという役目柄か、YMCA が発行している図書に接することがあります。最近のものをご紹介します。

『それぞれの日本YMCA運動史』～戦前から戦後、現代への提言を含む関係者のインタビューから～

長い書名が内容がなんたるかをほとんど物語っています。YMCA が何を目指し、何をやり、何が変わってきたのかを、当時の関係者である主事、会員がインタビューに答えるという形式でまとめられ、大変読みやすくできています。(日本YMCA同盟 2009年9月発行 定価500円)

## 東京YMCA 130年の歩み

元東京YMCA 副総主事の齊藤實さんが執筆されたもので、170頁余の年表が中心です。

元東京YMCA 主事であった山本俊正・関西学院大学教授は、「年表のひとつひとつは、神の呼びかけに応えた結果」と評されました。

(東京YMCA 2010年5月発行)

## YMCA基本用語小辞典

YMCAで、しばしば用いられる用語や概念が解説されています。一般には普通名詞だと思われる語が、YMCAでは特定なことを指していることがあり、そのことが分かると、話が正確に理解できるようになります。

たとえば、ときどき使われる「レイマン」という語については次のように(一部省略)解説しています。

レイマン(Layman)とは、本来、教職者(Clegyman)に対する平信徒を指す教会用語。YMCAでは有給職員に対する会員の総称として用いられてきた。かつては、会員の総称、その後は、理事、常議員、委員を指した。最近、この言葉には「素人」という意味が含まれており、その人がスタッフよりも専門性において劣ると意味しかねないため、ボランティア、もしくはポリシーボランティア(方針決定にかかわるボランティア。ポリシーメイキング・ボランティアともいう)と呼ぶようにしている。

国際協力募金、野外教育、リーダーシップ、アソシエーションなど100語について解説され、そこにYMCAの視点を見ることが出来ます。

(日本YMCA同盟 2001年2月改訂)